

# 稲生川ウォーク2024

令和6年4月21日（日）、十和田市にて稲生川ウォークが開催されました。本イベントは十和田市発展の礎となった「稲生川」の歴史を後世に伝えるため、平成13年から開催されているウォーキングイベントです。

今年は県内各地から114名がイベントに参加しました。最初に桜の広場公園で開会式を行った後、稲生川の起点である稲生川頭首工までバスで移動し、頭首工近くの親水公園で準備体操をして体をあたためました。その後、5km、14km、20kmの3つのコースに分かれて歩き出し、ゴールを目指します。



【準備体操（法量親水公園にて）】



【スタート地点（稲生川頭首工）】

稲生川は旧5千円札の新渡戸稲造の祖父である新渡戸傳（つとむ）が当時不毛の原野だった三本木原（現在の十和田市周辺）に十和田湖から農業用水を引くため、1855年に着工した農業用用水路です。

古くは江戸時代末期1856年に完成し、その後現在に至るまで改修を重ねて利用されている鞍出山トンネルや、1865年に完成した稲生川頭首工などの施設が存在し、その後の国営事業などにより総延長約70kmに達する長大な農業用施設となっています。

これは建設から100年以上が経過し、かんがい農業の発展に貢献、卓越した技術により建設された世界的にも有数の歴史的事例であるとして、2014年に国際かんがい排水委員会（ICID）により世界かんがい施設遺産に認定されました。

コースの道中には、完成後160年以上経った現在まで利用されている稲生川に関連する構造物が点在します。その一つ一つに解説パネルが設置され、参加者は興味深そうに歴史と触れ合いながら歩みを進めていました。



【コース上の水路と解説看板】

イベント当日は桜が満開の見頃を迎え、稲生川の水面を覆う桜の花筏を眺めながらの散策に参加者は心躍らせているようでした。



【稲生川沿いの桜】

関連事業：中山間地域ふるさと活性化事業（通称：ふる水基金、棚田基金）

<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/noson/hurumizutanada.html>